

# 船舶事故調査報告書

平成22年9月30日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 山本 哲 也  
 委員 根本 美 奈

事故種類	衝突
発生日時	平成22年6月12日 20時40分ごろ
発生場所	岡山県倉敷市水島港外 <sup>むくちしま</sup> 六口島灯標から真方位290° 1.5海里付近 (概位 北緯34° 26.4′ 東経133° 44.0′)
事故調査の経過	平成22年6月14日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 貨物船 <sup>りょうあん</sup> 第七量 安丸、498トン 133306、佐藤漁業株式会社 75.49m×12.00m×7.00m、鋼 ディーゼル機関、735kW、平成7年4月17日 B 引船 <sup>さいじょう</sup> 最上丸、19トン 294-20601、個人所有 17.50m×5.00m×2.10m、鋼 ディーゼル機関、735kW、平成9年8月 C はしけ <sup>エスケー</sup> SK-801 なし、株式会社シーゲートコーポレーション 38.7m×8.8m、鋼 なし D はしけ <sup>だい</sup> 大888 なし、株式会社シーゲートコーポレーション 43.5m×10.5、鋼 なし
乗組員等に関する情報	性別、年齢、受有免許等 A 船長 男性 61歳 三級海技士（航海） 免許年月日 昭和45年5月29日 免状交付年月日 平成20年5月26日 免状有効期間満了日 平成25年8月25日 B 船長 男性 49歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許年月日 平成16年8月6日 免状交付年月日 平成21年7月1日 (平成26年8月5日まで有効)
死傷者等	なし

損傷	A 球状船首左舷に凹損 D 船首に凹損	
事故の経過	A船は、船長Aほか4人が乗り組み、水島港外において錨泊中、B船は、船長Bが1人で乗り組み、それぞれ1人を乗せたはしけ2隻を縦列でえい航（以下「B船引船列」という。）し、水島港外を約5.0ノット（kn）の対水速力で西進中、平成22年6月12日20時40分ごろ、A船の球状船首左舷とB船引船列のはしけDの船首とが衝突した。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風速 約2m/s、気温 22.8℃ 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期、潮流 約2.1knの北西流	
その他の事項	<p>A船は、平成22年6月11日07時30分ごろ、右舷錨及び錨鎖3節使用して錨泊した。事故当時、A船は、錨泊灯のほか、作業灯や外部灯を点灯しており、船長Aは船室にいた。</p> <p>A船は、停泊当直者を配置していなかったため、B船引船列がA船に接近していることに気付かなかった。</p> <p>B船引船列は、はしけC及びはしけDを、B船船首からはしけDの後端までの長さが約180mとしてえい航していた。</p> <p>B船は、マスト灯3個、両舷灯、船尾灯及び引き船灯を表示したほか黄色回転灯を点灯していた。また、はしけCとはしけDは、それぞれ両舷灯及び船尾灯を表示していた。</p> <p>B船引船列は、水島港外を西進中、A船の東方（手前）で錨泊していた他の1隻（船名等不詳）が、抜錨して航行を開始し、明るい灯火を点灯したままB船引船列の方に向かってきたため、これを避けるため、左転して南寄りの針路とし、ガンツガ瀬北方灯浮標（紅色）及びトクダキノ石灯浮標（綠色）の間に向けて西進した。</p> <p>B船引船列は、他船を避けて南寄りの針路としたことと、北西流により圧流されたことで、A船に接近する状況となり、B船引船列のはしけDとA船の船首部とが衝突した。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>A船は、水島港外で錨泊中、B船引船列は、水島港外を西進中、B船引船列が、他船を避けるため南寄りの針路としたこと、及び北西流により南に圧流されながら航行したことから、A船に接近し、B船引船列のはしけDとA船とが衝突したものと考えられる。</p> <p>B船引船列は、他船を避けたのち、潮流による圧流の影響を考慮して、A船と十分な通過距離をとらなかつたものと考えられる。</p> <p>A船は、停泊当直者を配置していなかったため、B船引船列が接近していることに気付かなかったものと考えられる。</p>
原因	本事故は、夜間、水島港外において、A船が錨泊中、B船引船列が西進中、B船引船列が、他船を避けたのち、A船と十分な通過距離をとって航行していなかったため、B船引船列が潮流により圧流され、A船と	

	B船引船列のはしけDとが衝突したことにより発生したものと考えられる。
--	------------------------------------